

♪ 2020年度 **poco a poco** ♪

Nr. 18 2021年1月27日(水) 文責:プファイル・辰巳

オンライン授業 延長・・・

新型コロナウイルス感染防止のための制限措置が2月の半ばまで延長されることになりました。がっかりした人も多いと思います。私もオンラインでみなさんの顔が見られるのはうれしいけれど、やっぱり対面授業で直接お会いしたい気持ちでいっぱいです。2021年1月がやけに長く感じられるのは私だけでしょうか。



毎日のオンライン授業で目が疲れている人や姿勢が悪くなっている人はいませんか。授業の合間に目を休めたり、身体をほぐしたりするのを忘れないでくださいね。まだ2週間以上続くこの制限下での生活を、元気に乗り切れるように日々の生活を工夫したいものです。



音楽こぼれ話 <語源を探ろう ⑥>

Orchestra の語源はギリシア語！>

日本語でも頻繁に用いられている「オーケストラ」という言葉は、英語からの外来語です。日本では管弦楽団と訳されることもあります。

これまで紹介してきました音楽用語は、ラテン語やイタリア語が語源となってきましたが、オーケストラの語源はギリシア語の「オルケストラ」という言葉だそうです。古代ギリシアの劇場では、歌ったり踊ったり演技したりする舞台と観客席の間に半円形のスペースがあり、この場所を「オルケストラ」と呼んでいたそうです。楽器奏者がそこで楽器を弾いたり、合唱隊が歌ったりしていた場所です。現代のオペラハウスにある

オーケストラ・ピットのような場所ですね。 やがて、この呼び名がそこで演奏する楽器奏者の集団を意味するようになり、「オーケストラ」という言葉は今世界中で用いられています。

先述の通り日本では管弦楽団と訳されたり Symphonic orchestra から交響楽団と訳されたりします。管楽器(木管楽器と金管楽器の両方)、弦楽器(ヴァイオリン族、ハープなど)そして打楽器の楽器群からなり、曲によっては鍵盤楽器や民族楽器、現代では電子楽器なども加わることがあります。



オーケストラから管楽器群が抜けると「弦楽アンサンブル」となり、弦楽器群が抜けると「ブラスバンド」あるいは「ウィンドアンサンブル」となります。また一般的なオーケストラは100人前後の大編成になることもありますが、少ない編成の時は「室内オーケストラ」と呼ぶこともあります。

さて、このようにギリシア語を語源とする「オーケストラ」ですが、現代のクラシック音楽界を見渡してみると、ギリシアのオーケストラはあまり活躍していないようです。世界的なオーケストラというと、みなさんはどこのオーケストラを思い浮かべますか。北アメリカや西ヨーロッパのオーケストラ名が頭に浮かぶ方が多いのではないのでしょうか。では、ここで独断と偏見で選んだ世界の有名どころのオーケストラを挙げてみます。名前や演奏を聞かれたことのあるオーケストラはいくつあるでしょうか。

< アメリカ合衆国 >

- ・シカゴ交響楽団
- ・ニューヨーク フィルハーモニー 管弦楽団
- ・ボストン交響楽団
- ・フィラデルフィア交響楽団 など

< ヨーロッパ >

- オーストリア ・ウィーン フィルハーモニー ・モーツァルテウム オーケストラ
- ドイツ ・ベルリン フィル ・ヘッセンなど各地放送交響楽団
- ・ゲヴァントハウス オーケストラ ・シュターツカペレ ドレスデン
- オランダ ・コンサートヘボウ管弦楽団
- フランス ・パリ管弦楽団 ・リヨン国立管弦楽団
- チェコ ・チェコ フィル ・プラハ交響楽団
- 英国 ・ロンドン フィル ・BBC 交響楽団

< ロシア >

- ・サンクトペテルブルク(旧レニングラード)交響楽団

など など など..